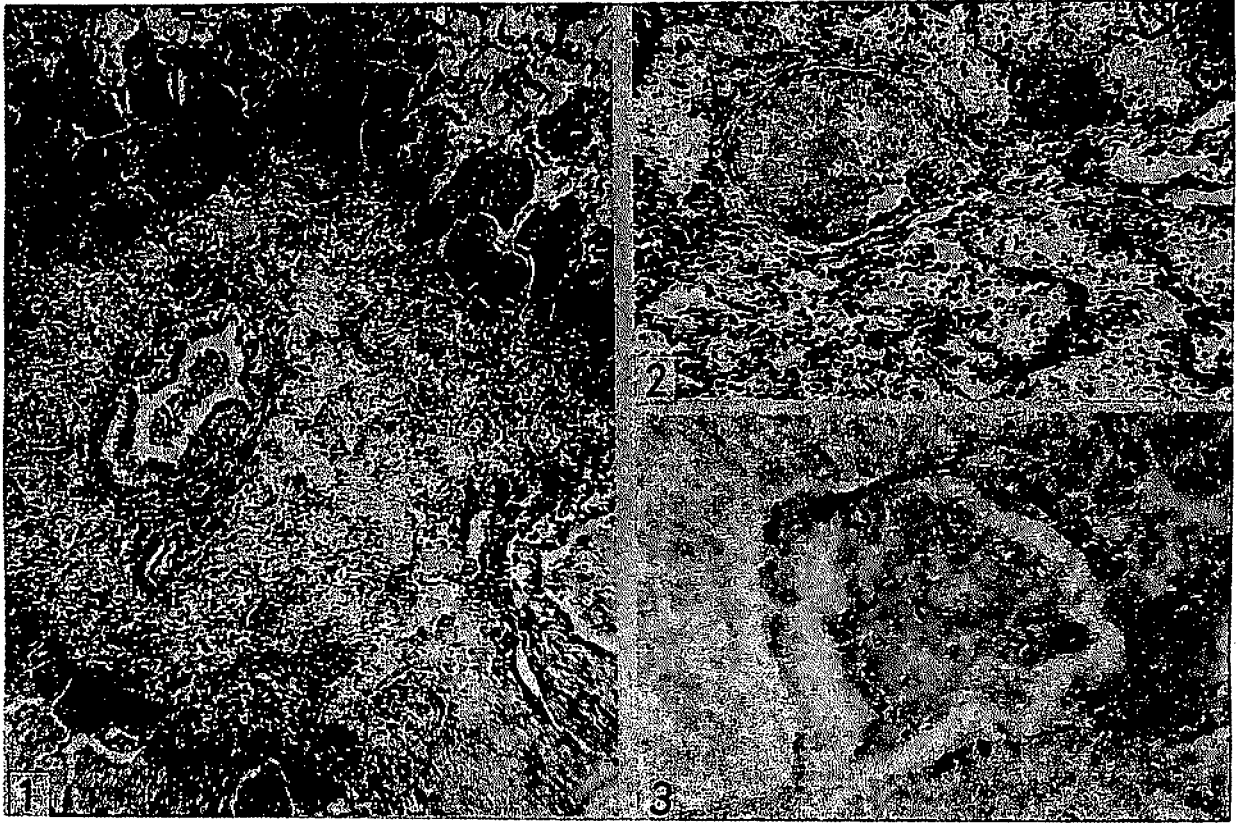


Candida tropicalis の存在を認めた豚の肺炎

酪農学園大学獣医学科家畜病理学教室出題・第13回獣医病理学研修会標本 No.194



北海道石狩郡当別町の約 100 頭を飼育しているある豚舎において、1 豚房の本例を含める 4 頭が、約 1 週間前より食欲不振に陥った。本例がと殺された翌日残り 3 頭は斃死したが、これらは検索されなかった。本例は大ヨークとランドレースの F₁、8 ヶ月令の牝豚で、1972 年 9 月 5 日にと殺された。

生体検査時、発育不良の感じはあったが、耳根部で体温上昇は認めなかった。餌は厨芥と配合を半々に与えられていた。同年 7～10 月頃かびの生えた飼料が全豚に与えられたが、当時それによる影響はなかった。

肺に *Pasteurella multocida* 性肺炎によく見られる結節性の、胸膜炎を伴う病巣が認められた。病巣は肺の 2/3 領域に及んだ。病変部押捺 Giemsa 染色によって、細菌より大型の、不定型桿菌様物体を認め真菌症を疑い、数ヶ所より計約 200 g の材料を採取し、磨碎し乳剤として、その 1 ml を抗生剤添加 Sabraud 培地に加え培養した所、平板上に 500 コ以上の同一性状コロニーが生じた。糖分解能、資化試験によりこれを *Candida tropicalis* と同定した。細菌培養は実施していない。

組織学的に肺病変は巣状性壊死性線維索性肺炎を示し軽度の器質化も伴っていた。組織球の類上皮様増生また

は巨細胞形成は認められない。Griedly 染色において、線維素を含む肺胞腔内及び壊死化帯外縁に、形、大きさ不定の淡赤色小物体が認められたが、菌糸様形状は示さない。同様物体は、肺門淋において大喰細胞内にも認められた。

本病変の原因は、例えば *Pasteurella multocida* の如き他の微生物で、*C. tropicalis* は病原性は極めて弱いといわれてもおる所から本菌を直接起炎因子と考えるより、他の因子との共棲に意味があると考えたい。何れにせよ肺病巣よりの本菌の分離は従来認められていないのではなからうか。なお鶏の *Candida* 症において、脂肪織に病変を見ることがあるといわれるが、本例においても大網膜及び臍脂肪織に壊死巣があったが、こゝには Griedly 陽性物体は認められなかった。

写真説明

1. 気管支周囲に認められた線維索性肺炎像。変性細胞をみだした肺胞帯にとり囲まれている。H.-E. 染色、×52.5。
2. 肺病巣に多発する血栓像の一つ。H.-E. 染色、×94。
3. 肺胞内滲出細胞と共にある真菌と思われる小物体。Griedly 染色、×375。